

ミサキギボシムシ

ギボシムシ綱ギボシムシ科

石川県カテゴリー 地域個体群

国カテゴリー なし

Balanoglossus misakiensis Kuwano

選定理由

能登半島が日本海沿岸における最初の生息発見地。

形態

体はミミズ型で全長は多くがおよそ30~40cm。頭部は先が尖り、後方は丸く、橋の欄干等に飾られる擬宝珠(ぎぼし)に似ている。襟と生殖翼の接合部は左右の自由端が離れ、肛門は体軸のやや背方に開く。体色は黄色っぽく、強烈なヨウドホルム臭を放つ。

国内分布

日本固有種で、従来は太平洋沿岸の千葉県以南と瀬戸内海にだけ分布するとされていた。

県内分布

志賀町増穂ヶ浦海岸の水深2m~7m付近に生息する。能登町の海岸一体からも生息情報が得られているので、調査が進めば生息地は増えると考えられる。

生態

砂中に潜入しているが、肛門付近には糞塊を築かない。産卵期は夏。

生息地の条件

増穂ヶ浦の生息地における海底砂の粒度は、細砂(<0.25)~極細砂(>0.06)が主体であった。同海域はカバザクラガイが高密度に生息する場所でもある。

生存の危機

浅い砂泥底が主な生活場所のため、埋立などにもなう生息適地の減少が危惧されている。

特記事項

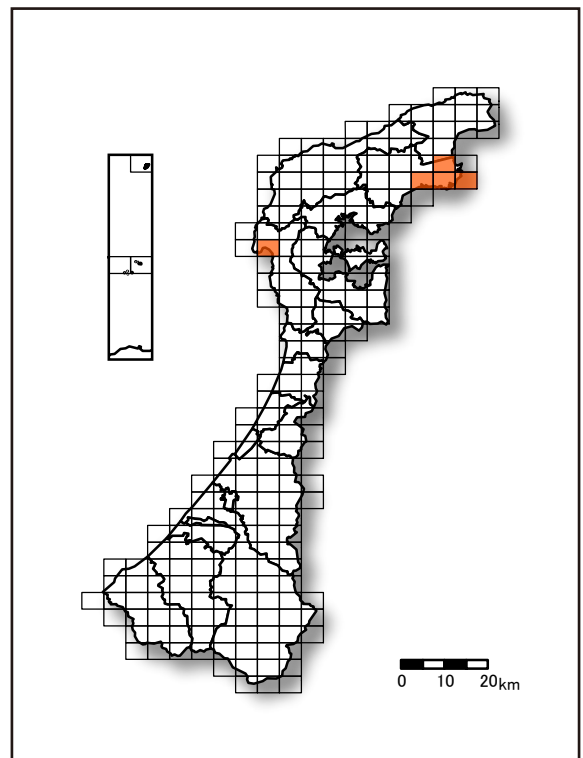
本種の外、九十九湾にはハネナシギボシムシが生息する。

参考文献

坂井恵一. 1999. 富来町増穂ヶ浦で発見されたミサキギボシムシ. 能登の海中林, (10): 6.
 坂井恵一・福島広行・東出幸真・又多政博・西川輝昭. 2001. 能登半島に生息するミサキギボシムシ *Balanoglossus misakiensis* Kuwano (半索動物門、ギボシムシ綱)の生態学的知見. のと海洋ふれあいセンター研究報告, (7): 11-20



写真提供者: 坂井恵一



県内の分布